

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	シンポジウム(公募演題)
タイトル	都市近郊における単独型強化型在宅療養支援診療所の試み
日時	平成 25 年 3 月 31 日 9:00~12:00
会場	第 6 会議室
所属先	医療法人コムニカ ホームケアクリニック横浜港南
共著者 (敬称略)	足立 大樹
企画趣旨	<p><b>【背景】</b> 横浜市南部及び周辺地域は、主に 1960 年代から 1970 年代に大規模宅地開発された地域であるため、近年著しく高齢化が進行した。さらに同地域では高齢者施設も増加した。以上のことから、居宅・施設双方の在宅医療の需要の増大があり、これに見合う在宅医療の供給体制が求められていた。さらに、24 時間コール体制を含む在宅医療の長期安定供給と、診療及び周辺サービスの質の確保の観点から、複数医師体制を伴う在宅医療専門診療所の構築を模索した。</p> <p><b>【経過】</b> 当院は 2004 年 4 月に医師 1 名の在宅専門診療所として開設した。当初は 2 つのグループホームの協力医療機関（患者数約 30 名）であった。その後、居宅患者数の増加、高齢者施設の協力医療機関契約の増加により経営が安定した。2009 年 7 月より常勤医師 2 名、2012 年 4 月に常勤医師 4 名体制となった。2012 年 4 月の診療報酬改定により強化型在支診が設定されたため、当院は単独型強化型在支診となった。職員の増加による診療所の狭隘化のため、2012 年 10 月に現診療所へ移転した。</p> <p><b>【現状】</b> 2012 年 11 月現在、当院は医師 4 名・看護師 6 名・事務職 4 名（全て常勤）で運営し、患者数約 500 名（居宅 120 名、施設 380 名）、協力医療機関受託施設 16（特養 2、有料老人ホーム 4、グループホーム 10）である。診療情報共有のため、全員参加のカンファレンスを毎朝行い、患者の身体状況のみならず生活・経済状況や介護状況等を多角的に検討し、診療方針を決定している。時間外コールは医師 4 名の輪番制で、月 1 回の週末当番を除き医師の週休 2 日（コール無し）を確保している。居宅患者については、連携する事業所（訪問看護ステーション（約 20 事業所）、居宅介護支援事業所（約 50 事業所）、調剤薬局（約 20 事業所）等）が多数に亘るため、地域連携担当看護師を置いて情報整理と院内周知を徹底している。施設については、施設職員の知識向上及び施設職員との情報共有が入所者（入居者）支援の質向上に重要であることから、施設において各回診療の都度カンファレンスを行い、施設職員も交えて診療方針を検討し成果を上げている。また、受託施設が多数となっているため、施設連携担当看護師を置いて連絡調整・情報整理を図っている。</p>

### 【課題・展望】

院内情報共有については、今後は IT の活用等で効率化を図る必要がある。患者数増加に対しては、業務の効率化を行うとともに、人材確保についての工夫も要すると考えている。病診連携に関しては、主連携病院である 4 病院と各々連絡をより密にするとともに、在宅看取りの実際を病院医師に知っていただく機会も兼ねて合同デスクカンファレンスを企画している。地域多職種・多事業所との連携についても、関係する事業所が多いため体制構築に困難を伴うが、今後啓蒙と整理が必要と考えている。

### 【まとめ】

単独型強化型在支診となって半年ほどの経過であり、診療所移転に労力を要したこともあり、これまでのところ強化型在支診として新奇な事業を打ち出せている訳ではない。しかし、これまでの運営経験から、診療所内の情報共有の工夫、施設や多職種との連携の工夫により効果を上げ、診療所の成長につなげてきた。強化型在支診の多くは連携型であるが、単独型である当院の運営経験は、都市及び近郊地域の在支診のあり方について一つのモデルとして提示出来ると考えている。